

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果と今後の対策

市川三郷町立三珠中学校

本年度実施しました「全国学力・学習状況調査」の本校の結果と今後の対策について、まとまりましたのでご一読ください。

本調査は毎年、マスコミ等にも取り上げられ、他都道府県との比較が話題にあがりますが、あくまでも生徒一人ひとりの学力向上のために活用するものです。本調査の結果を踏まえて、本校生徒の学力がさらに向上するよう、指導法の工夫や授業改善等に組織的・計画的に取り組んでいく所存です。

今後とも本校教育にご理解とご協力をお願いいたします。

## 1. 調査目的

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その成果と課題を明らかにするとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

## 2. 対象学年

- 国・公・私立の中学校3年生の全生徒

## 3. 実施期日

- 令和6年4月18日(木)

## 4. 調査内容

- ①教科に関する調査(国語・数学の学力調査)
  - ・各教科において、身につけておくべき内容や実生活において活用できることが望ましい知識・技能
  - ・知識、技能を実生活に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

## 5. 本校の学力調査の結果と今後の対策について

### (1) 結果

教科	国語	数学
全国との比較	同等	同等

\*上記「全国との比較」は、総質問に対する正答率の平均について、下の基準により記述

かなり上回る	10ポイント以上、上回っている場合
やや上回る	5ポイント以上、10ポイント未満、上回っている場合
同等	±5ポイント未満内にある場合
やや下回る	5ポイント以上、10ポイント未満、下回っている場合
かなり下回る	10ポイント以上、下回っている場合

(2) 結果をもとにした今後の改善のための取組

国 語	
分析と改善策	<p>① 基本的な表現方法の復習を行う。体言止めは、古典の三大和歌集掲載歌にもしばしば登場する表現技法なので、和歌の学習をする際に復習する。</p> <p>② 問題をよく読むことが必要不可欠である。問題文はヒントでもあるので、記述問題や作文の指導において、条件、指示内容を見落とさずに解答・記述することを指導する。記述問題で無解答がゼロだったことは評価できる。諦めずに自分なりの答えを記述する指導を継続する。</p> <p>③ 本文の内容を適切に読み取り、選択肢の内容との対応関係を正しく読み取る力が求められる。内容を大まかに捉えるだけでなく、選択肢の細部の言葉にも注意して解答する指導を行う。</p>
数 学	
分析と改善策	<p>① 「暗記」でなく、「考え方の理解」に重点を置くことで、理解のともなう知識・考え方の習得をめざす。</p> <p>② 授業や家庭学習などで説明や証明にいていねいに取り組み、基本的な力を身につけるようにさせる。</p> <p>③ 課題解決型の学習(数学的活動)を増やし、互いに考えを説明し合う場面を増やす。</p>

6. 学習状況(質問紙)調査について

質問紙調査では、多くの質問が下のような回答を選ぶ方式になっている。

- ◇肯定的回答:「1 よくしている(よくあてはまる)」  
 「2 どちらかといえばしている(どちらかといえば、あてはまる)」
- ◇否定的回答:「3 あまりしていない(どちらかといえば、あてはまらない)」  
 「4 まったくしていない(あてはまらない)」

これを受け、「肯定的な回答」、「肯定的でない回答」という見方で分析を行った。

(1) 結果

Ⅰ 生活習慣、規範意識、自己有用感、地域とのつながり等に関する質問

【概況】

肯定的回答か、そうでないかを知る質問項目が昨年より4項目増え、37項目となった中で肯定的な回答率が全国を上回ったのが35項目だった。下回った2項目もその差は3ポイント程度でほぼ同等と言える状況であった。このことより、本校生徒の多くが、心身共に健康的に日常生活や学校生活を送っていることが見て取れる。

肯定的評価の割合が全国比+10%以上であった項目が14/37(R5は20項目)、肯定的評価の割合が90%以上であった項目が25/37(R5は19項目)、肯定的評価の割合が100%であった項目が8/37(R5は1項目)と、全国と比べて肯定的回答が多かった。

☆100%だった項目は、

- ・朝食を毎日食べていますか。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- ・学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することで、分からないことをすぐに調べることができる。
- ・学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することで、画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよく分かる。
- ・学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することで、友だちと考えを共有したり比べたりしやすくなる。
- ・授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

- ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

三珠中生徒の基本的な生活習慣が安定していること、自己有用感・規範意識の高さ、集団生活をする上での他へのリスペクトの姿勢がうかがえる。また、学習を進める中でICT機器の有用感を強く感じていることも見て取れる。

☆肯定的評価の割合が全国と比べて特に高かった(+20ポイント以上の)項目は、

- ・1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したか。(+27.5)
- ・将来の夢や目標を持っていますか。(+22.2)

## 【内容別の様子】

### (1) 生活習慣・学習習慣・学校生活

#### 【良い傾向と捉えられる項目】

- ・朝食を毎日食べていますか。(100%:全国比+8.8)
  - ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(92.4%:全国比+11.7)
  - ・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(96.1%:全国比+3.6)
  - ・学校に行くのは楽しいと思えますか。(92.3%:全国比+8.5)
- と、上記4項目は、肯定的回答の割合が90%以上となっており、基本的な生活習慣が構築されていること、多くの生徒にとって学校が楽しい場所であることが見て取れる。

#### 【課題と考えられる項目】

- ・平日、1日当たりのTVゲームをする時間。
  - ・平日、1日当たりの動画を視聴する時間。
- どちらも全国平均と比べるとだいぶ少ない時間であった。とは言え、最も回答の割合が多かった区分はどちらも「1時間以上2時間未満」で、ゲームと動画視聴を合わせれば平日3時間以上という生徒が一定数以上いることが想像できる。それでも全国平均よりも低いと考え、日本の子どもたちの家庭での時間の使い方に不安を抱く。
- ・スマホやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。  
(守っている:61.6%、約束自体がない:26.9%)
- 「守っている」と答えた生徒の割合は全国平均より約10%低く、その分、「約束自体がない」と答えた生徒の割合が約10%多くなっている。全体の4分の1以上の家庭にスマホやPCを使用する上で約束がないことが浮き彫りとなった。そのような中で、本校ではSNS等に関するトラブルが今年度は、我々教職員が把握するものが1件もない。これについては、保護者の指導が行き届いているとともに生徒自身のモラルの高さが想像できる。生徒がスマホを持つ待たないはあくまでも家庭が決めることであるが、いざ生徒間でトラブルが起これば、その指導は学校に任せられることがほとんどである。それだけに、家庭には、生徒にスマホを持たせるにあたっての覚悟を持ってもらえるよう、PTAの折りなどに呼びかけていきたい。
- ・平日の家庭学習時間、土日の家庭学習時間
- 平日30分以上、休日1時間以上行っていると答えた生徒の割合が90%以上となっているのは、自主学習ノートの取組による部分が大きいと考えられる。その一方で、平日2時間以上、休日3時間以上学習すると答えた生徒の割合は全国に比べると極端に少なく、特に休日の3時間以上においては5分の1未満(実人数1人)となった。学習は長時間やれば良いという訳ではないが、休日に自分のやりたい学習にまとまった時間取り組むことも学力向上において大切なことである。この部分のてこ入れを考えていきたい。

### (2) 自己肯定感・有用感・自己管理

#### 【良い傾向と捉えられる項目】

- ・自分には、よいところがあると思えますか。(88.5%:全国比+5.2)
  - ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思えますか。(92.3%:全国比+1.9)
  - ・将来の夢や目標を持っていますか。(88.5%:全国比+22.2)
  - ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。(96.2%:全国比+6.4)
- どの項目を取って見ても、肯定的回答の割合が高く、全国と比較しても、すべて上回る結果となった。特に「将来の夢や目標」を持っていると答えた生徒の割合は全国と比べて20%以上、上回っており、自己肯定感・有用感・自己管理意識の高さがうかがえる。今後も大切にしていきたい。

#### 【課題と考えられる項目】 なし

### (3) 規範意識

#### 【良い傾向と捉えられる項目】

- ・人が困っているときは、進んで助けますか。(96.2%:全国比+6.1)
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思えますか。(100%:全国比+4.3)

- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。(100%:全国比+4.8)  
4項目中2項目で肯定的回答の割合が100%となった。三珠中生の規範意識の高さがうかがえる。校内のいじめアンケートにいじめがあがらなかったのには、最上級生のこのような規範意識の高さが影響を及ぼしているであろう。今後も我々大人が良い見本となれるようにしていきたい。

【課題と考えられる項目】

- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。(76.9%:全国比+9.4)

肯定的回答をした生徒の割合こそ、全国比を上回ってはいるが、全体の5分の1の生徒は、困りごとや不安があっても校内の大人に相談できないことを重く受け止めたい。生徒の性格によるところもあるかもしれないが、教職員は生徒が本当に困っているときに頼りにされる存在であるために、生徒の模範となるような立ち居振る舞いを日頃から心掛けたい。

(4) 他者との協働

【良い傾向と捉えられる項目】

- ・友だち関係に満足していますか。(92.3%:全国比+2.2)  
上野小・大塚小の2校の卒業生で構成される小さな集団ではあるが、中学入学からの2年間で良い人間関係を構築してきたことが分かる結果となった。

【課題と考えられる項目】

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。(76.9%:全国比+0.7)  
肯定的回答をした生徒の割合は、全国とほぼ同等と言えるが、同項目の昨年度の肯定的回答の割合と比べると、一気に16.9ポイントも減少している。この後の質問、「授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。(100%:全国比+7.7)」、「あなたの学級では、学級生活をよくするために学級活動で話し合い互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。(100%:全国比+13.7)」と合わせて考察すると、一定数の生徒は、「自分と違う意見について考えることを楽しいとは言えないものの、大切にしている」ことが浮かび上がってくる。

(5) 本や新聞との関わり

【課題と考えられる項目】

- ・新聞は読んでいますか。(11.5%:全国比+4.2)  
例年のことながら、本校・県・全国ともに、これほど新聞を読んでいる生徒の割合が低いことに衝撃を受ける。ただ、本校は週に1回、朝の帯学習の時間に「さんスタ」を行っている。(さんスタの時間=新聞を読んでいる時間)であるから、本来は100%と言っても良いのだが……。さんスタの取組を通して、さんスタ以外の時間にも新聞を読みたいと思えるような運用方法も考えてみたい。

(6) 自然や地域、外国との関わり

【良い傾向と捉えられる項目】

- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。(88.5%:全国比+12.4)  
昨年度とほぼ同等の高い肯定的回答の割合となった。三珠地域に根づく郷土愛のようなものを感じる。

(7) 学校のICT機器の活用

【良い傾向と捉えられる項目】

- ・学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。(96.2%:全国比+16.0)
  - ・学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することで、分からないことをすぐに調べることができる。(100%:全国比+6.1)
  - ・学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる。(88.5%:全国比+6.1)
  - ・学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することで、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。(100%:全国比+11.0)
  - ・学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。(92.3%:全国比+14.6)
  - ・学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することで、友だちと考えを共有したり比べたりしやすくなる。(100%:全国比+13.8)
  - ・学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することで、友だちと協力しながら学習を進めることができる。(96.2%:全国比+11.0)
- どの項目も肯定的回答の割合が高く、学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することをプラスに捉えていることが見て取れる。しかし、先生方の現状を鑑みると、現在の業務量に上乗せして、更にICT機器の有効活用をお願いするのは忍びない。生徒の思いを受け止めつつ、無理のない範囲で、ICT機器の活用に取り組んでもらえればと考える。

## (8) 多様な学びの展開・学習の活用・支援

### 【良い傾向と捉えられる項目】

- ・1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したか。(92.3%:全国比+27.5)
- ・1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。(96.2%:全国比+15.9)
- ・1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。(84.7%:全国比+9.3)
- ・1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか。(92.3%:全国比+6.2)
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思っていますか。(92.3%:全国比+13.3)
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。(92.3%:全国比+7.4)
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなど学習活動に取り組んでいますか。(96.2%:全国比+14.0)
- ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。(100%:全国比+13.7)
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。(96.2%:全国比+15.6)

1、2年生のときに受けた授業は上記4項目について、肯定的な回答をする生徒の割合が高く、特に「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したか。」については全国と比べて27.5ポイントも高く、生徒たちの学習に対する充実感が見て取れる。

また、「分かるまで教えよう」とする先生方の姿勢、学級活動における話し合い活動の質の高さ、総合的な学習の時間の進め方についても、肯定的回答の割合が大変高い結果となり、充実した多様な学びの展開がなされていることが読み取れる。

### 【課題と考えられる項目】

- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。(88.4%:全国比-3.3)
- 肯定的回答の割合が88.4%と決して低い数値ではないが、教科の授業や学級活動、総合的な学習の時間と比べると道徳は、てこ入れをして良い部分だと感じられる。

## 2 教科(国語・数学・理科・英語)に向かう姿勢

### 【概況】

全国学力学習状況調査の対象科目(毎年行われる国語・数学に加えて、3年に1度程度行われる理科・英語)について、「その教科が好きか」など、その教科に向かう姿勢についての質問、国語8項目、数学8項目、理科3項目、英語5項目についての三珠中3年生の概況は以下の通りである。

国語は8項目中7項目で肯定的回答の割合が全国を下回った。特に意欲に関わる質問における肯定的回答の割合が低く、国語に前向き取り組めていない生徒が一定数いることがこの結果から見て取れる。

数学は8項目すべてにおいて肯定的回答の割合が全国を上回った。特に「数学の勉強は好きか」については、肯定的回答の割合が全国と比べて、何と23.6ポイントも高かった。また、「数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようと考えていますか。」について肯定的回答の割合は96%を超え、全国と比べて20ポイント近く高かったことから、数学に向かう姿勢が大変積極的であることが見て取れる。

理科は質問数が3項目と少なく、「理科の勉強は好きか」についての肯定的回答の割合は65.4%と全体の約3分の2で、全国と同等であった。残りの2項目はいずれも肯定的回答の割合が全国より高かった。

英語は5項目すべてにおいて肯定的回答の割合が全国を上回った。特に「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたか」においては15.8%、肯定的回答の割合が高かった。

## (2) 考察(学校ランドデザインと関連付けて)

### 1 確かな学力

- ★わかる授業、意欲を高める授業の創造(教科担任)
- ・話し合いや発表、対話的な学習の充実(『みたまスタンダード』による授業実践)(教科担任)
- ・個に応じた学習指導の充実(教科担任)
- ★授業のデジタル化とICT機器の積極的活用(串松)
- ★家庭学習の習慣化と朝学習の充実(磯野)
- ・各種学力テストやQU分析に基づく改善(河西)
- ・外国語教育の充実(小野)
- ・豊かな学びのための有効な予算執行(渡邊)

今回、国語・数学と生徒質問紙の結果から見えてくる「確かな学力」に関わっての成果と課題について考察してみる。

- ◇学習の中でPC・タブレット等のICT機器を活用することについて生徒は大変有用だと考えていることが分かった。このような状況を踏まえて、我々教職員は意欲を持って、過度な超過勤務につながらない範囲でICT機器を可能な範囲で有効活用することを目指していきたい。
- ◇授業や学級活動における話し合いや発表、対話等について生徒は大変有用だと考えていることが分かった。今後も、三珠中の財産とも言える「みたまスタンダード」による授業実践を行っていきたい。
- ◇家庭学習の習慣化は、本校の自主学習ノートの取組が功を奏し、平日30分以上、休日1時間以上行っていると答えた生徒の割合が90%以上であることから窺われている。一方で、平日2時間以上、休日3時間以上学習すると答えた生徒の割合が極端に少ないのが気になる。義務感で家庭学習に向かうのではなく、自分のやりたい学習にまとまった時間取り組む生徒の育成を目指していきたい。

## 2 豊かな心

- ★生徒の望ましい生活習慣づくり(大木)
- ・生徒会活動や行事による充実した学校生活(雨宮)
- ・いじめを「許さない」「させない」指導の徹底(大木)
- ・「考え議論する道徳」の推進(串松)
- ・ボランティア活動の推進(雨宮)
- ・朝読書、委員会活動による読書活動推進(遠藤早)
- ・自己の生き方を見通したキャリア教育の推進(磯野)
- ・不登校を防ぐ手立て、保護者やSC等との連携(芦澤)
- ★様々な課題を抱えた生徒への対応、支援(立川)

生徒質問紙の結果から見えてくる「豊かな心」に関わっての成果と課題について考察してみる。

- ◇生活習慣に関する質問において、肯定的回答の割合はすべて90%を超えて全国平均を上回っていることから、生徒ほとんどの生徒が望ましい生活習慣を身につけていることが分かる。学校から効果的に呼びかけができていいることに加え、家庭の教育力の高さも要因だと考えられる。
- ◇学校生活に関する質問においても、「学校に行くのが楽しい」と答える生徒が90%を超え、多くの生徒たちが充実した学校生活を送れていることが分かる。自己肯定感、有用感を待つ生徒の割合も高く、行事や生徒会活動、学級活動など、この規模の学校ならではの様々な活動を通して生徒が活躍できる場面の多さが要因ではなからうか。
- ◇「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と100%の生徒が考えている。日頃から、先生方の「いじめは許さない」という指導が生徒に浸透していると考えられる。

## 3 健康安全

- ・生徒自身が考えて行う健康管理(河西)
- ・家庭と連携した健康教育(芦澤)
- ★情報モラル教育の推進(串松)
- ・体力テスト、1校1実践による体力向上(河西)
- ・安全で効果的な部活動の推進(河西)
- ★避難訓練、交通安全等安全教育の充実(教頭)
- ・校内環境美化の推進(水上)
- ・施設、設備の訂正な管理、整備(教頭)

生徒質問紙の結果から見えてくる「健康安全」に関わっての成果と課題について考察してみる。

- ◇情報モラル教育の推進に関わって、7月にS.N.S.学習会を行った。この調査が行われた時期は4月中旬であるが、その時点でスマホやコンピュータの使い方について家庭内で約束自体がない生徒が全体の4分の1強、いることが分かる。
- ◇放課後や週末の過ごし方において、「部活動」と回答した割合は全国を上回っている。一方で、「部活動以外のスポーツ⇒社会体育」と回答した生徒の割合も全国を上回っている。部活動の地域移行が叫ばれる中、勝ち負けだけにこだわらない、生徒が部活動に意義を実感できるような指導及び指導体制を確立していきたい。

## 4 地域・家庭連携

- ・小中連携の推進(校長)
- ・みさと学(ふるさとキャリア教育)の推進(磯野)
- ・ホームページや各種「たより」による情報発信(校長)
- ・保護者との密な連携(教頭)
- ★地域学校協働本部を活用した地域連携(校長)

生徒質問紙の結果から見えてくる「地域・家庭連携」に関わっての成果と課題について考察してみる。

- ◇「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の問いに対して、肯定的回答をした生徒の割合は全国より12.4%も高く、地域や社会のために貢献したいという思いが強いことが見て取れる。学園祭のオープニングの希珠太鼓をはじめ、日頃より町との結びつきを感じられる環境が、そのような気持ちを育てているのだと思われる。これからも地域人材の発掘と活用を効果的に行っていきたい。

## 7. 今後に向けて

### ① 確かな学力

- ・授業は引き続き、みたまスタンダードを意識し、思考力、判断力、表現力を育むと同時に、学習の定着を図る。

#### みたまスタンダード

(授業前)	1. 誰もが安心して発言できるクラスづくり
(導入)	2. 生徒が考えたいくなる題材の設定、提示
(自力解決)	3. 生徒が学びの視点を持てるめあての設定
(集団解決)	4. 考える視点を明確に個人の考えを持つための十分な時間の確保
(まとめ)	5. 生徒の考えを繋ぐ教師の言葉かけ
(授業後)	6. やりとり(教師と生徒・生徒と生徒)のある授業
	7. 生徒が学んだことを確認できる授業のまとめ
	8. わかったこと、もっと知りたいことを記述する生徒の振り返り
	9. 家庭学習の仕方の提示

- ・家庭学習を目的を持って自発的に行えるよう、これまでのやり方を見直す取組を今年度の校内研究会や職員会議の中で行ってきた。これによってどのような変貌があったのかを総括して、「やった甲斐があった」と生徒が感じるような家庭学習の仕方を追求していきたい。

### ② 豊かな心

- ・生活習慣や学校生活に関する意識が大変前向きであるのは、日頃の教職員の愛ある指導に加えて、家庭の教育力なしでは語れないと思う。これからも教育活動を進めていくにあたっては、「自分の家族だったら、どういう対応を取るのかを常に意識し、愛ある対応」を心掛けるとともに、家庭との連携を大切に、子どもたちの豊かな心を育てていきたい。
- ・三珠中規模の強みであるのが、学校生活の中で、責任を持たなくてはならない場面や脚光を浴びる機会が多いことである。生徒会活動や学校行事を充実させる中で、生徒が自己肯定感や有用感を感じることができるようカリキュラムを考えていきたい。
- ・「いじめ」に対しては引き続き「どんな理由があっても許されない」ことであることを学校全体で堅持していきたい。そのためにはまず我々教職員が他者に敬意を持って接するなど、生徒の見本となる行動を心掛けたい。

### ③ 健康安全

- ・多くの生徒がS.N.S.を利用する現代社会の中で、子どもたちがネットに係わるトラブルに巻き込まれないためにできることを進めていきたい。最も力を入れたいのは、子どもにスマホを持たせる際の家庭の覚悟であり、スマホは便利な道具であると同時に子どもを犯罪の被害者時には加害者にもしてしまう恐れのある物であることを三者懇談やPTAの折りなどに伝え、持たせる際には家庭内のルールを作るよう訴えたい。

### ④ 地域・家庭連携

- ・保護者との連携においては、引き続き、通信、お便り、ホームページ等でこまめに学校の様子を伝え、保護者にとって学校が数居の高い場所でなくなるよう努力していきたい。
- ・地域との連携においては、「みさと学」の考え方を、まずは校内で共有して、生徒にとって学びが大きく、職員の過度な負担のない、系統立てられた教育課程を、中学校区の学校との連携にとどまらず、町内全学校を巻き込んで進めていきたい。そのために、みさと学を校内研究会の研究テーマに据えるなど、思い切った取組を行ければと考える。
- ・昨年度発足した地域学校協働本部について、ここまで今年度、大きな進展はなかったが、1学年の調理実習(ほうとうづくり)、2学年の職場体験についてはアドバイザーの支援を受け進めることができた。今後については、「地域のボランティアがあったらありがたい」という場面をピックアップし、アドバイザーと連携して、よりよい運営を目指していきたい。